

薩摩川内 まごころ文芸コンクール

「名文は求めません。

つづつてほしいのは
あなたのまごころ。」

をテーマに行われた、このコンクール。
全国や海外から9584編もの心温まる
美しい作品が、ここ薩摩川内に寄せられました。
どの作品にも、心豊かな人、
思いやりに満ちたことばがあふれています。
その中で今回は、金賞と銀賞に
入賞した作品3点を紹介します。
ご家族で心暖まる作品を
ぜひ、お読みください。

主催：「薩摩川内まごころ文芸コンクール」実行委員会 ☎0996(23)0653

金賞

左うでの新東

新潟県 小學生

坂井 泰法君(10歳)



今年の夏、ぼくはお母さんとお姉ちゃんと弟と温泉へ出かけた。ぼくと弟は男ぶろへ。体を洗って温泉に入ると、気分は最高。でも弟はまだ入って来ない。しばらく待っても来ないから、洗い場に行くけど、何と弟は知らないおじいさんの体をコシヨコシヨ洗っていた。

「ここがかゆいかな。こつちもかゆいかな。」

弟はとつても楽しそう。おじいさんもニコニコ笑顔。その時、ぼくはハツとした。おじいさんの左手首の部分が丸まっていて、先が無い……。左手が無い。弟はぼくに気づくと

「ぼくがおじいさんの左手になつてるんだよ。」

と言った。おじいさんもうれしそうに言った。

「こんなに気持ちがいいのは、初めてだよ。」

その後、ぼくたちは三人で温泉に入った。

「あーあ、極楽、極楽。」

おじいさんがつぶやくと、弟は「まだ死んでないのに、変な事を言うなあ。」

と言った。おじいさんが「わっはっはっは」と笑った。ぼくも笑った。

弟も笑った。

おふろからあがると、おじいさんが

「何か、飲むかい？ さっきのお礼だよ。」

と言った。ぼくはジュース、弟は牛乳をたのんだ。弟は牛乳をあまり好きじゃないのに……。

弟はお礼を言うとすぐに

「牛乳を飲むと、ほねがじょうぶになるんだよ。左手が生えてくるかもしれないよ。」

とおじいさんに牛乳をわたした。

「ほう、そうか。じゃあ半分ずつ飲もうか。」

おじいさんはうれしそうに飲んだ。残りの半分を弟にあげると、

弟は一気に飲みほした。

「これで、もう大じょうぶだよ。でももし生えなくても、またぼくが洗ってあげるね。」

弟が言うとおじいさんは

「ああ」と大きくうなづいて左うでで弟の頭をなでた。弟は

「また、いつしよに入ろうね。約束だよ。」

と言った。おじいさんの左うでであく手した。

ぼくは、あの時のおじいさんの笑顔をわすれない。弟の幸せそうな笑顔も。